

訪問ヘルパーリスク大きいのに

一四〇九圖

は、陽性の疑いのある人には正規職員のヘルパーを派遣しています。しかしリスク回避のためにその間、他の利用者に派遣できず、訪問件数が減り経営も圧迫されています。前出の門脇さんは語ります。「過厚接觸者への対応を断る事業所も多いため、ヘルパーへの特別手当や事業所への減収補償などサービスを継続するには無理があるからです。これでは利用者の命・生活が守られません。ヘルパー不足で招き車をかけることもあります」

千葉市は、陽性者や過厚接觸者に訪問介護などを提供した場合、一口3回を限度だ。一回9000円の支援金を事業所に支給していく。

「利用者の生活守らないと」

命では、他の市の利用者には事業所の持ち出しでヘルパーに手当を払っています。

東京都三鷹市にあるNPO法人グレースケープ機構の訪問介護事業所では、第6波ですでに陽性者と濃厚接触者8人への支援を行っています。

会では、他市の利用者には事業所の持ち出しでヘルパーに手当を払っています。

陽性の判明まで

陽性が判明した事例もありました。陽性者や濃厚接触者への支援を断る事業所があり、ケアマネジャーから代替の臨時依頼もあると聞こえます。同機構代表の柳本文貴さんは次のように語ります。

「口ロナ陽性者も濃厚接觸者になってしま食事を维持するため介護はやめられません。ギャップにガウン、ヘルーズシールドをはじめ完全防護のうえ、時間を短縮したり、内容を見直しながら支援しますが、訪問するペルバーのリスクは大きいです。医師や看護師がコロナ陽性者に往診や訪問看護を行つ場合、医療保険の診療報酬で医業濃度を上げるために加Pをはじめてじたたスビ員一員のままであります。

日、出診時に検査して陽性が判明した事例もありました。

贊同者
1800人以上

柳本さんら3人の事業者有志は、感染者や密接者に訪問介護を行った場合、リスクを算出し、加算をつけたことや、PCR検査や抗原検査を行った場合、リスクを算出し、加算をつけたことなど、必要に応じて速やかに受けられるようにしてほしい。ヘルパーはじめ在宅介護従事者に優先接種するなど、スター接種を希望者全員に提出する予定です。7日現在、1800人以上の賛同者が集まっています。回遊圖の署名をオンラインで集めていきます。

は、陽性の疑いのある人には正規職員のヘルパーを派遣しています。しかしリスク回避のためにその間、他の利用者に派遣できず、訪問件数が減り経営も圧迫されています。前出の門脇さんは語ります。「過厚接觸者への対応を断る事業所も多いため、ヘルパーへの特別手当や事業所への減収補償などサービスを継続するには無理があるからです。これでは利用者の命・生活が守られません。ヘルパー不足で招き車をかけることもあります」

千葉市は、陽性者や過厚接觸者に訪問介護などを提供した場合、一口3回を限度だ。一回9000円の支援金を事業所に支給していく。

命では、他の市の利用者には事業所の持ち出しでヘルパーに手当を払っています。

東京都三鷹市にあるNPO法人グレースケープ機構の訪問介護事業所では、第6波ですでに陽性者と濃厚接触者8人への支援を行っています。

会では、他市の利用者には事業所の持ち出しでヘルパーに手当を払っています。

師だけの200円で、問診では一方の600円の加算が付きます。ヘルパーには一切ないのはおかしい」

陽性が判明した事例もありました。陽性や濃厚接触者への支援を断る事業者があり、ケアマネジャーから代替の臨時依頼もあると聞いています。同機構代表の柳本文貴さんは次のように語ります。

「口口ナ陽性や濃厚接触者になつても食事や排せつなど、このちを維持するための介護はやめられません。ギャップにガウン、フェースシールドをはじめ完全防護のうえ、時間を短縮したり、内容を見直しながら支援しますが、訪問するヘルパーのリスクは大きいです。医師や看護師がコロナ陽性者に往診や訪問看護を行う場合、医療保険の診療報酬で医業者有志は、感染者や濃厚接触者に訪問介護を行った場合、リスクに見合った感染症対応に加算をつけることや、PCR検査や抗原検査を必要と感じて連絡を受けられるようにすること」ヘルパーをはじめ在宅介護従事者にたいしワクチンのアースター接種を希望する全員に優先接種する」と述べています。この要請書をまとめた文書を提出する予定です。7月現在、1800人以上の賛同者が寄せています。同趣意団の署名をオンライン署名サイトのChange.org（チャジ・ドット・オー・グ）で集めています。

ヘルパー負担増大



防護具の着脱を練習するホームヘルパー（NPO法人グレースケア機構提供）

手当・補償求める声 切実

が陽性にならぬ限りは濃厚接触者になりました。保健所から連絡がないまま発症。自ら保健所に問い合わせても症状が軽いとしてPCR検査や健康観察の対象になりませんでした。訪問介護で掃除や買い物の支援を受けていました。同事業所は部屋に入らず、買い物を玄関に置いてドア越しに体調確認する支援を続けました。支援のない日も電話で健康管理しましたが、これには介護報酬がつきませんでした。

新型コロナウイルス感染症の第6波で高齢者にも感染が広がり、訪問介護サービスを利用する高齢者が陽性や濃厚接触者となる例が増えています。厚生労働省はこうした場合も訪問介護事業所にサービスの継続を求めています。しかし派遣されるホームヘルパーに、リスクにあざわしい特別手当が安定的に支給されるような仕組みは不十分で、介護報酬への加算はありません。事業者から改善を求める切実な声が上がっています。

（内藤真弓子）

千葉市内で暮らすある高齢者世帯は妻が認知症、夫は心不全や糖尿病等の基礎疾患があります。1月末、妻の通うデイサービスでクラスターが発生し、妻は濃厚接触者の疑いでPCR検査を受けまし

た。しかし結果が分かるまで3日かかりました。同世帯には夫婦合わせて1回、週6回ホームヘルパーが訪問。女性には服薬確認や排せつ介助などの支援をしていました。支援がないと生活が成り立たません。ヘルパーは完全な防護具に身を包んで支援を続けました。といひが夫は体調を崩し救急搬送。妻は3日後陰性が確認され、介護施設のショートステイを利用しました。

このことはな県張（同市）は、やはり、ヘルパーは陽性かもしない方への支援に強い緊張を強いられています。また

同福社会の門脇めぐみ介護部長は語ります。「PCR検査結果が分かるまで数日かかるので、ヘルパーは陽性かもしれないと、ヘルパーは陽性でも自宅療養になる方がおり、可能な方法で支援を続けていますが、感染症のリスクにあざわしい補償はありません。手当など利用者負担にせん。手当など利用者負担に

陽性者への対応もあります。同市で一人暮らしする高齢女性は、遊びに来た娘と孫

が陽性にならぬ限りは濃厚接触者になりました。保健所から連絡がないまま発症。自ら保健所に問い合わせても症状が軽いとしてPCR検査や健康観察の対象になりませんでした。訪問介護で掃除や買い物の支援を受けていました。同事業所は部屋に入らず、買い物を玄関に置いてドア越しに体調確認する支援を続けました。支援のない日も電話で健康管理しましたが、これには介護報酬がつきませんでした。

陽性者への対応もあります。同市で一人暮らしする高齢女性は、遊びに来た娘と孫